

<白金標準、WPIC 第 2 四半期 PGM 需給報告へ・・・>



(出所：オアシス)

週末の雇用統計で非農業部門雇用者数が事前予想を大きく上回る 16.2 万人増となり、前月の 2.3 万人減が 2.1 万人増へ上方修正するなど、W カップ以降の労働市場は勢いを保っている雰囲気を見せている。そのため 9 月 16 日開催の FOMC で利上げ確率が 50% から 56% へ上昇し、リスク商品は売られる動きを見せている。しかし白金標準先物は、米国経済の改善を好感し、一時売られるも 8800 円で下げ渋りながら 9000 円を回復している。

特に白金価格の上昇で鉱山会社は最高収益を挙げており、インパラプラチナムは年間利益が 31 倍以上増加し、ヴァルテラ・プラチナはノーザムプラチナに M&A を仕掛けるなど、鉱山会社の再編成の動きも出ている。また水素を使ったプラチナ搭載のトラックが 20% のシェア確保で 186 トンのプラチナ需要が期待されるなど話題を呼んでいる。その状況下で 9 日には WPIC 第 2 四半期 PGM 需給報告が予定されており、前回の第 1 四半期は 2026 年が 9 トンの供給不足を示唆し、4 年連続の供給不足を予想している。また地上在庫は世界需要の 3 ヶ月分を割り込むと指摘しており、この状況で 9000 円を割り込む値動きが起こっても短期間と思え、押し目買いの値動きが続くと思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が下げながら、**シグナル** は下げている。RCI では**短期**が下げ止まり、**長期**は切り下げている。ただ指数平滑移動平均線のレンジが 9000 円で横ばいしており、居心地の良い価格水準に思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,175,000 円(2026 年 9 月 7 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 100,320 円(2026 年 9 月 7 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>